

精神医学講座

教授：中山 和彦	精神薬理学，てんかん学
教授：笠原 洋勇	老年精神医学，総合病院 精神医学，心身医学
助教授：伊藤 洋	精神生理学，睡眠学
助教授：中村 敬	精神病理学，森田療法
助教授：宮田 久嗣	精神薬理学，薬物依存
講師：須江 洋成 (兼任)	臨床脳波学，てんかん学
講師：忽滑谷和孝	総合病院精神医学
講師：山寺 亘	精神生理学，睡眠学
講師：小曾根基裕	精神生理学，睡眠学
講師：小野 和哉	精神病理学，児童精神医学
講師：中西 達郎	総合病院精神医学
講師：橋爪 敏彦	老年精神医学，総合病院 精神医学

研究概要

I. 精神病理・精神療法研究会

精神病理学および精神療法学の最新のテーマについて研究を行った。高齢者の摂食障害の背景となる人格構造，病理についての研究を行い，統合失調型パーソナリティ障害を有するものでは高齢・重症化していることを明らかにした。境界型パーソナリティ障害の治療方法の研究では，短期で適度に構造化された入院治療技法の研究を進めている。また，M. Linehann の弁証法的行動療法の翻訳を行った。国際比較研究として，日本と中国間の神経症性障害の症候の比較研究を行い，強迫性障害が中国都市部の外来において有意に多いことを明らかにした。

II. 児童精神医学研究会

児童思春期における軽度の発達障害や行動障害の治療に関する研究を行っている。本年度は，広汎性発達障害への治療的接近のあり方に関する研究や，児童青年期における自傷行為に関する研究を施行した。

III. 森田療法研究会

2004年度から厚生労働科学研究「精神療法の実施方法と有効性に関する研究」の一環として社会不安障害に対する森田療法の有効性に関する研究を2006年度で終了した。2006年度までの3年間に入院森田療法を実施した社会不安障害23例について検討し，症状の改善に加えて社会適応レベルや自己受

容性に有意な向上を認めた。また中村らは，日本森田療法学会と連携しながら，外来での森田療法の標準化を進めている。この他，樋之口は慢性抑うつ患者の性格学的研究を，矢野はパニック障害と全般性不安障害の関係について性格学および共存障害の観点からの研究を，鹿島は入院森田療法により改善した患者の退院後フォローアップ調査を質的研究方法に基づいて行った。

IV. 薬理生化学研究会

基礎研究では，1) 脳内透析法による非定型抗精神病薬や新規抗うつ薬の脳内作用機序に関する研究，2) 薬物依存の形成，維持，再発における学習・記憶系脳内神経回路の関与に関する研究を行った。臨床研究では，1) 嗜好品科学として，摂取欲求の観点から嗜好品と依存性薬物の類似性と差異に関する研究，2) Positron computed tomography (PET) を用いた精神疾患の脳内受容体に関する研究，3) 非定型抗精神病薬と，選択的セロトニン再取り込み阻害薬あるいは気分安定薬の併用による気分障害治療の研究を行った。

薬理生化学研究会では，精神疾患の脳内神経学的機序解明を中心とした基礎研究と，臨床研究の統合を試み，疾患の機序解明にとどまらず，患者の日常生活機能の向上をめざした治療法の開発を目標としている。

V. 精神生理学研究会

時差症候群に関するフィールド実験，ベンゾジアゼピン (BZ) 受容体選択性の差異による BZ 系・非 BZ 系睡眠薬の副作用特性に関する研究，閉塞型睡眠時無呼吸症候群に対する選択的セロトニン再取り込み阻害薬や経鼻的持続陽圧呼吸の治療効果に関する研究，精神生理性不眠症に対する外来森田療法および認知行動療法の治療効果に関する研究，Cyclic Alternating pattern (CAP) を指標とした，ビタミン B12 静脈内投与による夜間睡眠内容に与える影響，慢性精神分裂病生活療法導入例に関する精神生理・時間生物学的研究，アミノ酸 (グリシン) の夜間睡眠及び起床時の気分を与える影響などの研究を行った。

VI. 老年精神医学研究会

地域在住者を対象とした縦断的疫学研究を行い，精神疾患の発症率や有病率から環境・遺伝・生物学的危険因子の同定，さらには，研究を通して構築される疾患モデルを治療戦略に応用することを目標と

している。

2006年度は、1998年から継続して新潟県糸魚川市における地域在住者の疫学調査を行う、高齢者の認知機能の経時的変化を調査した。また、神経変性性疾患、精神疾患における認知障害のプロフィールを明らかにすることにより、診断精度の向上や新たな病態モデルを作成する研究を開始した。

VII. 総合病院精神医学研究会

本研究班は、身体医学の診断・治療の過程で観察される精神医学的・心理学的諸問題を多面的に研究することにより、総合病院における精神科の意義を明らかにすることを目的としている。まず、末期患者に対する終末期医療(緩和ケア)では、癌センター東病院との数年来の共同研究により、がん患者、その家族、および遺族の心理的課題に関する研究を行った。また、当大学における緩和ケアチームにも参加し、臨床的実践を積み重ねている。一方、外来通院中のうつ病患者への心理教育のプログラムを、改訂版を作成して継続して行った。そして、うつ病への認知行動療法の効果判定を長期予後(再発など)の観点から検証し、対象患者をうつ病以外に拡大する検討を行った。

VIII. 臨床脳波学研究会

非定型抗精神病薬による異常脳波の発現について検討し、その機序を興奮性神経伝達物質であるグルタミン酸との関連から考察し報告した。その他、高齢発症のてんかん例について臨床特徴を検討し、高齢者では二次性全般化に至ることが少なく、複雑部分発作は自動症を欠き、意識障害のみであることが多く、動きに乏しいことから認知症として誤って認識され、てんかんの診断に至り難い場合が多いことを報告した。また、以前からの知的障害を伴うてんかん例の経時的脳波変化と臨床症状との相関の検討、古典的脳波、とくに6Hz棘徐波複合の臨床特徴についての再考に関する研究は継続して行った。

IX. 臨床心理学研究会

2006年度も心理療法の技法の向上を図るために、症例検討とディスカッションを継続して行った。また精神分析的精神療法、森田療法、カウンセリングの技法についても学習を深めた。さらに、心理テストについては、発達障害・人格障害を中心に研究をすすめた。関連病院や学外にも広く参加を呼びかけている慈恵心理臨床の集いでは、駒澤大学文学部心理学科・茨木博子教授を講師として招聘し、心理劇

(サイコドラマ)のワークショップを行い、サイコドラマを実際に体験するとともに、その基礎を学んだ。このような臨床・研究活動のみならず、心理研修生を積極的に受け入れ、心理学的教育に積極的に取り組んだ。

「点検・評価」

2006年度においても、9部門の研究会からなる研究活動を行い、基礎的研究(薬理生化学、精神生理など)から臨床研究(精神療法、リエゾン、臨床脳波、認知症の疫学研究、臨床心理など)まで幅広い方法論を持つことが当教室の特色であり、患者を全人格的に診ることが重要な精神医学においては、望ましい研究体勢にあるといえる。本年度は、これに加えて、児童期から老年期まで幅広い疾患に対して、それぞれの研究会が専門外来の開設や、専門医によるリエゾン活動を活発に行うようになったことが特筆すべきことといえる。このことは、医学科における研究と臨床のあり方として望ましく、また、教育の観点からも良好な効果が期待される。研究活動においては、従来通り、それぞれの研究会が積極的に研究費を獲得して研究を行い、活発な学会発表がなされている。しかし、原著論文、特に、学術的に権威のある国際誌などへの投稿は多いとはいえ、今後、より厳密な研究計画に基づいた独創的な研究が求められる。さらに、各研究部門での独立した研究テーマにとどまらず、教室全体として大きな研究目標を設け、基礎と臨床のジョイントした研究を計画する必要を感じている。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Inagawa K, Hiraoka T, Kohda T, Yamadera W, Takahashi M. Subjective effects of glycine ingestion before bedtime on sleep quality. *Sleep Biological Rhythms* 2006; 4(1): 75-7.
- 2) Matsumoto N, Ikeda M, Fukuhara R, Shinagawa S, Ishikawa T, Mori T, Toyota Y, Matsumoto T, Adachi H, Hirono N, Tanabe H. Caregiver's burden associated with behavioral and psychological symptoms of dementia in the local community elderly people. *Dement Geriatr Cogn Disord* 2007; 23: 219-24.
- 3) 伊藤 洋, 原田大輔, 林田健一, 石野裕理, 中山和彦. 精神医学と睡眠医学—リエゾン精神医学におけるせん妄—. *精神誌* 2006; 108(11): 1217-21.
- 4) 中村 敬, 平久菜奈子, 矢野勝治, 鹿島直之, 樋之

- 口潤一郎. 対人恐怖症はどうなったのか—社会不安障害とひきこもりに関連して—. 精神科治療 2006; 21: 1207-14.
- 5) 小曾根基裕, 八木朝子¹⁾, 千葉伸太郎 (太田総合病院), 田村義之 (旭川医科大学), 井上雄一 (代々木睡眠クリニック), 内村直尚 (久留米大学), 伊藤 洋, 佐々木三男¹⁾ (太田睡眠科学センター), 中山和彦, 清水徹男 (秋田大学), Terzano MG (Univ Parma). 睡眠パラメータ CAP を用いたゾルピデムの精神生理性不眠症患者における睡眠の質 (安定性) に対する検討 プラセボを対照とした無作為化クロスオーバー比較試験での検討. 新薬と臨 2006; 55: 737-53.
- 6) 塩路理恵子, 今村祐子, 赤川直子, 平久菜奈子, 川上正憲, 矢野勝治, 館野 歩, 久保田幹子, 中村 敬. 慢性抑うつと身体化症状のために長期欠勤を繰り返した女性症例. 精神療法 2006; 32(6): 745-53.
- 7) 樋之口潤一郎, 今村祐子, 平久菜奈子, 矢野勝治, 塩路理恵子, 館野 歩, 久保田幹子, 中村 敬. 回避傾向の強い症例に対する森田療法. 精神療法 2006; 32(5): 627-35.
- 8) 川上正憲, 増茂尚志, 中村 敬, 中山和彦. 職場のメンタルヘルスにおける森田療法の有用性—栃木県精神保健福祉センターにおける相談事例より—. 日森田療学会誌 2006; 17(2): 105-14.
- 9) 森田道明, 小野和哉, 須江洋成, 石黒大輔, 中山和彦. 解離性昏迷および慢性疼痛に改善が認められた1症例. 精神 2006; 9: 76-80.
- 10) 松本直美, 池田 学, 福原竜治, 兵頭隆幸, 石川智久, 森 崇明, 豊田泰孝, 松本光央, 足立浩祥, 品川俊一郎, 銚石和彦, 田辺敬貴, 博野信次. 日本語版 NPI-D と NPI-Q の妥当性と信頼性の検討. 脳と神 2006; 58: 785-90.

II. 総 説

- 1) 中山和彦. 更年期障害とホルモン補充療法. 精神科治療 2006; 21: 61-3.
- 2) 伊藤 洋. 精神生理性不眠の診断と治療. 最新医 2006; 11(5): 419-25.
- 3) 宮田久嗣, 中山和彦. 不安障害の薬物療法における適応外使用. 精神科治療 2006; 21: 503-7.
- 4) 忽滑谷和孝, 中山和彦. 特集 神経症圏障害のすべて 各論 恐怖症性障害. 概念・診断・心理社会的研究. 臨精医 2006; 35(6): 777-82.
- 5) 山寺 亘. 睡眠障害専門外来の現状と課題. 外来精神医療 2006; 5(2): 32-7.
- 6) 小曾根基裕, 小幡こず恵, 伊藤 洋. 慢性不眠の問題と対応. 臨精医 2006; 9(10): 1995-2001.
- 7) 角 徳文, 本間 昭. Alzheimer 病の疫学. 医のあゆみ 2007; 5: 427-30.

- 8) 樋之口潤一郎. 不安障害(薬物療法と精神療法の併用をめぐる) 森田療法の立場から. こころのりん a・la・carte 2006; 25(3): 389-93.
- 9) 真鍋貴子, 忽滑谷和孝. うつ病患者を抱える家族への対応. 医のあゆみ 2006; 219(13): 984-8.
- 10) 川上正憲, 増茂尚志, 中村 敬, 中山和彦. パーソナリティ障害における攻撃性と衝動性. 精神科治療 2006; 21(9): 971-9.

III. 学会発表

- 1) 中山和彦. (特別講演) 思春期の精神障害—非定型精神病を中心に. 第 95 回日本小児精神神経学会. 東京, 6月.
- 2) 伊藤 洋. (シンポジウム) 不眠症の非薬物療法. 第 31 回日本睡眠学会定期学術集会. 大津, 6月.
- 3) 宮田久嗣, 板坂典郎 (専修大学), 中山和彦. (シンポジウム) Involvement of environmental stimuli in nicotine place preference and its neural mechanisms in rats. 第 28 回日本生物学的精神医学会・第 36 回日本神経精神薬理学会・第 49 回日本神経化学会大会合同年会. 名古屋, 9月.
- 4) Ozone M, Yagi T¹⁾, Itoh H, Tamura Y (Asahikawa Medical College), Inoue Y (Yoyogi Sleep Clinic), Uchimura N (Kurume Univ), Sasaki M¹⁾ (Ohta General Hospital), Nakayama K, Terzano MG (Parma Univ), Shimizu T (Akita Univ). Effects of zolpidem on CAP variables, in Japanese psychophysiological insomnia patients: A randomized, placebo-controlled, crossover study. The 5th Asian Sleep Research Society Seoul Congress. Seoul, Sept.
- 5) 小野和哉, 沖野慎治, 中村晃士, 石黒大輔, 森 美加, 黄 菊坤, 中山和彦. 境界性パーソナリティ障害の入院治療ガイドラインの検証. 第 102 回日本精神神経学会総会. 福岡, 5月
- 6) Koga M, Kodaka F, Sannomiya M, Ando T, Nakayama K. Delusional symptoms induced by discontinuation of venlafaxine extended-release (XR). The 25th Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum Congress. Chicago, July.
- 7) 塩路理恵子, 平久菜奈子, 川上正憲, 鹿島直之, 樋之口潤一郎, 山寺 亘, 中村 敬, 中山和彦. 身体化の病理を持つ症例に対する森田療法導入時の治療的工夫. 第 24 回日本森田療法学会. 浜松, 10月.
- 8) 三宮正久, 小高文聡, 古賀聖名子, 宮田久嗣, 中山和彦. 気分安定薬と低用量の olanzapine の併用が有効であった双極性うつ病の 2 症例. 第 16 回日本臨床精神神経薬理学会. 福岡, 10月.
- 9) 中村紫織, 繁田雅弘, 岩元 誠, 角 徳文, 杉村共

- 英, 中山和彦, 川室 優 (高田西城病院), 新名理恵 (東京都老人総合研究所), 本間 昭 (東京都老人総合研究所). 新潟県糸魚川市における CDR 0.5 の高齢者についての 7 年後の追跡調査結果. 第 21 回日本老年精神医学会. 東京, 6 月.
- 10) Nakamura K, Okino S, Nakamura A, Mori M, Ishiguro D, Ono K, Agata T, Nakayama K. Characteristics of eating disorder leading to schizophrenia using Eating Disorder Inventory-2 and the Multidimensional Perfectionism Scale. 国際児童青年精神医学会 (IACAPAP). Melbourne, Sept.
- 11) 鹿島直之 (町田市民病院精神科), 中村 敬, 中山和彦. 入院森田療法で改善した不安障害についての質的研究. 第 24 回日本森田療法学会. 浜松, 10 月.
- 12) 矢野勝治, 平久菜奈子, 川上正憲, 樋之口潤一郎, 館野 歩, 塩路理恵子, 今村祐子, 赤川直子, 久保田幹子, 中村 敬, 中山和彦. パニック障害と全般性不安障害の人格特性と共存障害に関する研究: 両疾患の共存障害の比較. 第 24 回日本森田療法学会. 浜松, 10 月.
- 13) Morita M, Nakayama K, Nakajo R, Kusaka A, Miyata H. Is Mirtazapine in combination with perospirone efficacious in drug resistant depression? —Via 5-HT1A receptor activation—. European College of Neuropsychopharmacology. Paris, Oct.
- 14) Kodaka F, Sannomiya M, Koga M, Miyata H, Nakayama K. Symptomatologic changes in major depressive disorder after an adjunctive use of olanzapine; preliminary observation in 3 cases. Collegium internationale neuro-psychopharmacologium. Chicago, July.
- 15) Shinagawa S. Characteristics of abnormal eating behaviours in frontotemporal lobar degeneration—a cross-cultural survey. 5th International Conference on Frontotemporal Dementias. San Francisco, Sept.
- 16) 落合結介, 宮崎眞也子¹⁾, 川室 優¹⁾, 中村晃士, 小野和哉, 中山和彦 (¹高田西城病院). 早期の ADHD 診断によりその後の治療的接近が硬直化した 1 例. 第 47 回日本児童青年精神医学会総会. 千葉, 10 月.
- 17) 岩崎 弘, 高橋千佳子, 須江洋成, 中山和彦. 非定型抗精神病薬服用中に脳波異常・痙攣発作の出現をみた例. 第 40 回日本てんかん学会. 金沢, 9 月.
- 18) 平久菜奈子, 川上正憲, 矢野勝治, 鹿島直之, 樋之口潤一郎, 塩路理恵子, 館野 歩, 久保田幹子, 中村敬, 中山和彦. 入院森田療法で軽快した自己臭恐怖の一例. 第 24 回日本森田療法学会. 浜松, 10 月.
- 19) 植木洋一郎, 阿部定則, 林田健一, 伊藤 洋. RLS の臨床特徴とその治療. 第 97 回成医会. 東京, 12 月.
- 20) 石井一裕, 安藤智道, 瀬戸 光, 小堀聡久, 尾作恵理, 森田道明, 真鍋貴子, 品川俊一郎, 三宮正久, 中山和彦. 治療抵抗性双極性うつ病に Carbamazepine と Olanzapine の併用療法が著効した 1 例. 東京精神医学会. 東京, 7 月.

IV. 著 書

- 1) Nakamura K. Taijin-kyofu-sho (Phobia of interpersonal situation) and social phobia. Velotis CM. New Developments in Anxiety Disorder Research. New York: Nova Science Pub, 2006. p.199-215.
- 2) 森 美加. 月経関連症候群と女性のアイデンティティ: 「女の子だから, 女の子だけだ」. 元永拓郎, 早川東作. 受験生, こころのテキスト. 東京: 角川学芸出版, 2006. p.189-96.
- 3) 塩路理恵子. 「何をしたいかわからない」とひきこもっていた青年への入院森田療法. 北西憲二, 中村敬. 森田療法で読む社会不安障害とひきこもり. 東京: 白揚社, 2007. p.232-43.
- 4) 林田健一. 睡眠時呼吸障害とその他の過眠性疾患の鑑別. 井上雄一, 山城義広. 睡眠時呼吸障害 Update 2006. 東京: 日本評論社, 2006.

V. その他

- 1) 中山和彦. 職場ストレスによる不安と抑うつ. 慈恵医大生涯学習シリーズ 2006; 29: 29.
- 2) 伊藤 洋, 松永直樹, 小曾根基裕, 大淵敬太, 小幡こず恵. 勤労者のストレスと休養の関係に関する調査. 厚生労働省科学研究費補助金健康科学総合研究事業平成 17 年度総括・分担研究報告書 2006: 31-42.
- 3) 宮田久嗣, 昼間洋平, 坂坂典郎 (専修大学). ニコチン依存の形成と維持における環境刺激の関与についての研究—学習・記憶の脳内機構の観点から—. 平成 17 年度喫煙科学研究財団研究年報 2006: 685-90.
- 4) 小野和哉, 沖野慎治, 中村晃士, 石黒大輔, 森 美加, 黄 菊坤, 中山和彦. 境界性パーソナリティ障害の入院治療ガイドラインの検証. 厚生労働省委託費研究平成 17 年度報告書 2006: 17-23.
- 5) 伊藤達彦, 嶋本正弥, 清水 研, 秋月伸哉, 内富庸介. がん患者の抑うつ—サイコオンコロジー—. Mebio 2007; 24(2): 64-73.